

まえがき

若い先生方のなかにこういう人はいないでしょうか。

授業がもっとうまくできるようになりたいと思って、単元や教材ごとの授業の進め方を解説した『〇〇の指導法』『〇〇の板書』といったマニュアル本を読みあさる。その手順通りに授業を行うけれど、うまくいかない。きっと参考にしたものがまずかったんだと思って、また別のマニュアル本に手を伸ばす。けれども、やっぱり思うようにいかない。この繰り返し。私はこんなに一生懸命頑張っているのに…。徒労感が増していく。

あるいは、教師を目指す学生でこんな人はいないでしょうか。

教育実習で授業をしなくちゃいけない。教員採用試験でも模擬授業があるらしい。心配なので仲間を集めて一緒に模擬授業を行ってみたけれど、声の大きさや板書の見やすさを指摘し合うだけで終わってしまった。表面的な感じがするけれど、まだ現場経験のない自分たちにはどうやったら授業をよくできるかなんて分からないし…。授業づくりってどんなふうにして学べばいいの？

さらに、彼らを育てる立場のベテランの先生や指導主事、大学の教職課程の先生方のなかにこういう人がいるかもしれません。

若い先生や学生の授業を見て「こうしたらいいよ」とアドバイスをするけれど、本人に響いている感じがしない。望ましいやり方をていねいに教えているつもりなのに、「ハイ」と返事が返ってくるだけで授業は何も変わらなかったり、「分かってます！」と嫌な顔をされたり…。何度言っても授業に変化が見られないことにだんだんこちらもイライラしてくる。どうやって彼らを指導していけばいいの？

本書はこうした悩みを抱えている方々のために書かれました。

今挙げた3つの例に共通して欠けているものは何でしょうか。

それは、授業で起きた具体的事実を振り返り、そこから授業づくりについての気づきを導き出すという学び方です。

たしかに、マニュアル本に載っている手順や先輩教師からの「こうしたらいいよ」というアドバイスが役に立つこともあります。けれども、教室

で遭遇しうる状況をすべて事前に想定することが不可能である以上、あらゆる場面での対応策を誰かにあらかじめ教えてもらうわけにはいきません。また、そもそも授業づくりに関して、どんな子どもたちや状況でも通用する絶対的な「正解」があるわけでもありません。教師は、自分が置かれた状況のなかでどう準備し、どうふるまうか、最終的には自分で考えて自分で決めなければならないのです。

そのためには、授業づくりの考え方を身に付けることが必要になります。考え方を身に付けていれば、教師は、状況に合わせて柔軟に授業の組み立てを考えたり、臨機応変な対応を行ったりすることができるようになります。

そうした考え方を身に付けるうえで有効なのが、授業で起きた出来事をもとに振り返りを行って、出来事の意味や背後にある発想、別の可能性などを考えるという学び方。実践のこうした振り返りは、教師教育の分野では「リフレクション（省察）」と呼ばれ、教師の専門性の伸長のために欠かせないものとみなされるようになっていきます。

そこで本書では、授業づくりの学び方と考え方を同時に学んでいくことを目指します。具体的事実からどのようにして気づきを導き出すかというリフレクションの仕方と、それを通して得られる授業づくりの発想のポイントを一緒に学んでいきます。

こうしたやり方は一見、遠回りのようで、「手っ取り早く結論だけを教えてくれ」と思われるかもしれませんが。けれども、ポイントを浮かびあがらせるためのリフレクションの仕方から知ること、ポイントをより幅広く応用したり、さらにそれ以外のポイントを自分で見つけ出していったりすることが可能になります。また、学生や教師を育てる立場のみなさんの場合には、本人が自分の頭で考えて授業を変えていくのをサポートするための手がかりが見えてくるはずです。

そのために本書では、授業づくりを扱う本として、今までにないタイプの構成をとりました。

メインをなす「セッション」では、小学校教師を目指す学生が集まって、模擬授業を通して授業づくりについて学ぶ勉強会をしているという架

空の設定を用います。大学生5名が、教師役と子ども役に分かれて模擬授業を実施し、それを振り返る話し合いを行います。事例には小学校の授業をとりあげていますが、振り返りでの掘り下げ方や発想のポイントは中学校や高等学校の場合にも共通しますので、中高の先生方やそれを目指すみなさんにも活用していただけたらと思います。

「セッション」と「セッション」の間には、「ミニレクチャー」を設けました。「ミニレクチャー」では、本書で進めていくような学び方の意義や理論的背景、具体的な方法について解説します。

これらを通して授業づくりの学び方と考え方を身に付けて、教師志望の学生や若手教師のみなさんには自身の授業をよりよくするために、彼らを育てる立場にあるみなさんにはその手助けをするために、役立てていただければと思います。

なお、本書の「セッション」で描く授業の事例は、私がこれまでに学生の模擬授業や実際の授業などで目にしてきたものをもとに加工して構成しています。そのなかには、現場の先生方から見たら「あり得ない」と感じられるような、あるいは、教師用指導書に従っている限りは起こり得ないような「失敗」も出てくるかもしれません。けれども、こうした素朴な「失敗」は、学生や新人教師が陥りがちな発想や癖をよく現すもの。また、経験豊富な先生方にとっても、授業づくりの発想のポイントを意識化する機会になるはずです。

本書が、挑戦とリフレクションの繰り返しによってよりよい実践を追求していく楽しさへと、みなさんを招き入れるきっかけとなりますように。

さあ、始めましょう。

渡辺貴裕

目次

まえがき	i
本書の構成	vi
本書の活用法	x
登場人物の紹介	xiii
「セッション」の表記について	xiv

セッション 1

小3 理科「物の重さ」	1
ミニレクチャー① 教師役と子ども役との対話	16

セッション 2

小6 社会「参勤交代」	21
ミニレクチャー② 振り返りを深めるということ	40

セッション 3

小2 算数「かけ算の問題づくり」	45
ミニレクチャー③ 子ども役になるということ	61

セッション 4

小2 国語「たとえをつかって文を書こう」	65
ミニレクチャー④ 感情が果たす役割	82

セッション 5

小4 算数「何倍でしょう」	87
ミニレクチャー⑤ 模擬授業 & 検討会をやってみよう	103

セッション6

小5 社会「身のまわりの情報」	113
ミニレクチャー⑥ 検討会の深め方	130

セッション7

小4 国語「話し合い」	137
ミニレクチャー⑦ 模擬授業以外の授業づくりの勉強会	155

セッション8

小4 音楽「とんび」	165
ミニレクチャー⑧ 実際の授業の振り返りに応用するには	181

付録セッション1

小5 外国語「What sport do you like?」	191
---------------------------------	-----

付録セッション2

小2 算数「長さをはかろう」	201
ミニレクチャー特別編 学生や新人教師を育てる立場のみなさんへ	210

模擬授業の勉強会を振り返って5人から一言ずつ 216

あとがき 自分の頭で考える教師であるために 217

ポイント一覧 220

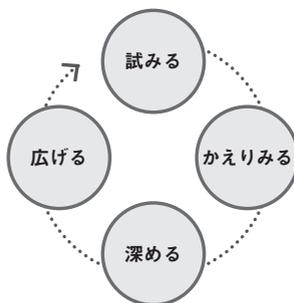
索引 222

本書の構成

セッション

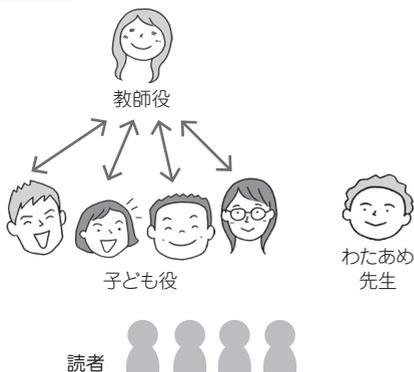
「セッション」では、小学校教師を目指して勉強会を行っている5名の学生と、サポート役の「わたあめ先生」による架空の勉強会の様子を描きます。

「セッション」の冒頭では、まず模擬授業の課題が示されます。「○○について授業を行いなさい」といったものです。その後、下図のように、「試みる」「かえりみる」「深める」「広げる」の4つのステップで進行します。



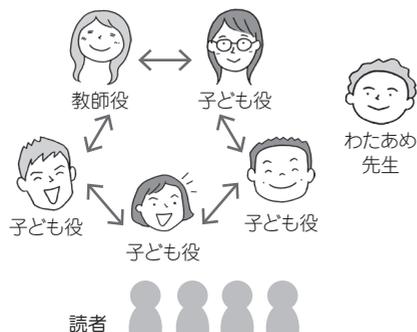
以下、それぞれのステップの中身と、登場人物および読者であるみなさんの立ち位置とを示しておきます。

試みる



「試みる」では、5名の学生のうちの1名が教師役となって、課題に対して自分で考えて準備した授業を行います。ここで想定されている授業は、45分のものではなく、10～20分程度の短いものです。他の4名は子ども役として授業に参加します。「わたあめ先生」と読者はそれを見守ることになります。

かえりみる



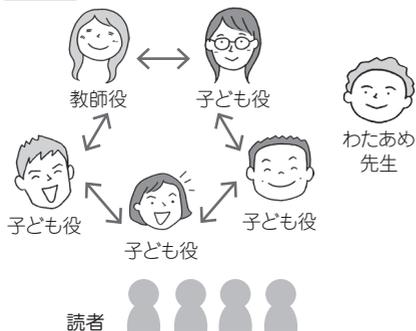
「かえりみる」では、今行った模擬授業に関して、学生たちがそれぞれの立場から感想を言い合います。教師役あるいは子ども役としてどんなふうを感じたり考えたりしたか、どんな疑問が湧いてくるか、述べ合います。ここでも「わたあめ先生」と読者はそれを見守っています。

深める



「深める」では、「わたあめ先生」が、模擬授業での出来事やその後の話し合いでの学生たちの発言をふまえて、振り返りを深めるための視点を、学生たちと読者に向けて語ります。「わたあめ先生」は、「これはこうすればよい」という答えを示すわけではありません。状況の整理を行い、一段深い見方ができるようになるための問いを発します。

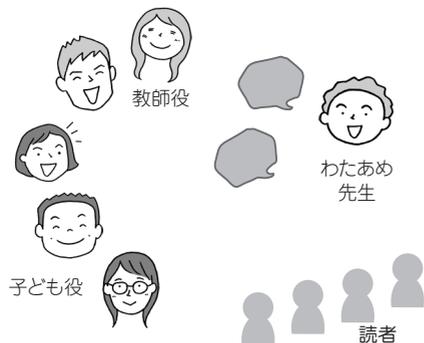
広げる



「広げる」では、「わたあめ先生」の話を受けて、学生たちがあらためて、授業の改善案や発展方策について話し合います。そうした改善案を再度試してみることもあります。「わたあめ先生」と読者はそれを見守っています。

これら「試みる」「かえりみる」「深める」「広げる」の4つのステップを通して、授業のリフレクションが進みます。

クロージング



これらの後にセッションの「クロージング」があります。ここでは、「わたあめ先生」が、主に読者のほうを意識しながら、セッション全体をふまえてのコメントを行います。続けて、関連するワークの提示（「考えよう & 交流しよう」）、書籍の紹介（「ブックガイド」）も行います。

以上のような流れは、一種の公開ワークショップのようなものを想像してもらえると分かりやすいでしょう。

ミニレクチャー

「セッション」と「セッション」の間の「ミニレクチャー」では、リフレクションとは何か、それにどんな意義や必要性があるのか、また授業づくりを学ぶうえでそれをどう役立てていけばよいのかといった、本書の背景にある理論や具体的な方法を紹介します。「セッション」のようにそれぞれ単独でも読めますが、①～⑧のひと続きで読むことで、順を追って理解することができます。

小3理科「物の重さ」

▶▶ 課題

「物の重さ」の単元で、形が変わっても物の重さは変わらないことを理解させる授業を下さい。



学習指導要領（2017年公示版）

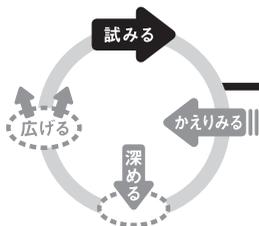
□理科 第3学年「内容」より

(1) 物と重さ

物の性質について、形や体積に着目して、重さを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 物は、形が変わっても重さは変わらないこと。



試みる



咲希先生

咲希先生、黒板の前に立つ。教卓には台ばかりが載っている。

咲希先生：今日から新しい勉強をします。物の重さについての勉強です。
(黒板に「物の重さ」と書く。)今日の「めあて」はこれです。

黒板に短冊を貼る。「めあて 物の形を変えると重さはどうなるかを調べよう。」

物の重さ

めあて 物の形を変えると重さはどうなるかを調べよう。

咲希先生：では、「めあて」をみんなで大きな声で読んでみましょう。

子どもたち：物の形を変えると重さはどうなるかを調べよう。

咲希先生：今日はこの「めあて」について学習します。ではまず、この「めあて」をノートに写してください。(子どもたち、ノートに写す。)

咲希先生：(子どもたちが写し終わったところを見計らって)物の形を変えると重さはどうなるのでしょうか。誰か予想ができる人？

挙手する子おらず。子どもたち、少し戸惑いの様子。

咲希先生：それでは、アキラさん、どうですか。(近くに座っていたアキラ

小6社会「参勤交代」

▶▶ 課題

江戸幕府の政治についての学習の一環として、参勤交代をとりあげる授業を行いなさい。



学習指導要領（2017年公示版）

□社会 第6学年「内容」より

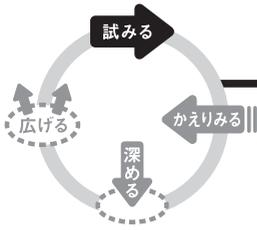
(2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

(キ) 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。



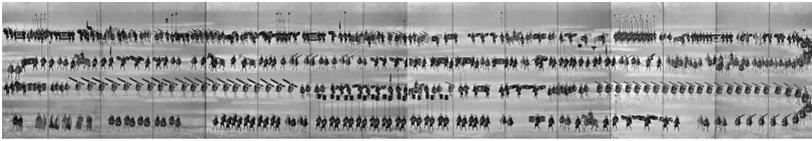
試みる



黒板に「江戸幕府の政治」と書いておく。

明先生：前は、徳川家康が1603年に江戸幕府を開いたということを学習しました。今日は、その続きです。まず、これを見てください。

明先生、巻物状に丸めてあった参勤交代の図版（加賀藩大名行列図屏風）の拡大コピーをクルクル広げながら黒板に貼る。



（石川県立歴史博物館蔵）

タケシ：長っ。（笑）

明先生：この絵を見て、思ったこと、気づいたことを教えてください。

ユカ：人の行列。

タケシ：人がたくさんいる。

リエコ：同じものを持っている人がいる。

サキ：馬に乗ってる人もいる。

タケシ：武士っぽい。

ユカ：長い棒みたいなのを持つてる人がいる。

リエコ：箱みたいなのを持つてる人がいる。

サキ：みんな足を広げている。（タケシ「ほんとか…」）

明先生：はい、これは、江戸に向かう加賀藩の大名とお付きの人たちの行列です。加賀ってどこか分かりますか？

サキ：富山？

ユカ：えっと、石川？

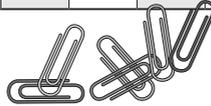
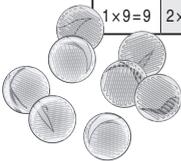
明先生：そうです、今の石川県です。そして、えーっと（図版右上の該当

小2算数「かけ算の問題づくり」

▶▶ 課題

かけ算の単元で6の段の九九まで学習を行ってきたという想定のもと、6の段の九九を使って解く問題を子どもに考えさせる授業を行いなさい。

1の段	2の段	3の段	4の段	5の段	6の段	7の段	8の段	9の段
1×1=1	2×1=2	3×1=3	4×1=4	5×1=5	6×1=6	7×1=7	8×1=8	9×1=9
1×2=2	2×2=4	3×2=6	4×2=8	5×2=10	6×2=12	7×2=14	8×2=16	9×2=18
1×3=3	2×3=6	3×3=9	4×3=12	5×3=15	6×3=18	7×3=21	8×3=24	9×3=27
1×4=4	2×4=8	3×4=12	4×4=16	5×4=20	6×4=24	7×4=28	8×4=32	9×4=36
1×5=5	2×5=10	3×5=15	4×5=20	5×5=25	6×5=30	7×5=35	8×5=40	9×5=45
1×6=6	2×6=12	3×6=18	4×6=24	5×6=30	6×6=36	7×6=42	8×6=48	9×6=54
1×7=7	2×7=14	3×7=21	4×7=28	5×7=35	6×7=42	7×7=49	8×7=56	9×7=63
1×8=8	2×8=16	3×8=24	4×8=32	5×8=40	6×8=48	7×8=56	8×8=64	9×8=72
1×9=9	2×9=18	3×9=27	4×9=36	5×9=45	6×9=54	7×9=63	8×9=72	9×9=81



学習指導要領（2017年公示版）

□算数 第2学年「内容」「A 数と計算」より

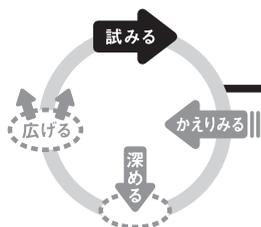
(3) 乗法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 乗法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。
- (イ) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- (ウ) 乗法に関して成り立つ簡単な性質について理解すること。
- (エ) 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。
- (オ) 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。
- (イ) 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かすこと。



試みる



梨恵子先生

梨恵子先生、黒板に「6のだんの九九」と書いておく。

梨恵子先生：今日は6の段の九九の学習の続きをします。まず、前回学習した、6の段の九九と一緒に唱えましょう。せーの。

梨恵子先生、子どもたち：ろくいちがろく、ろくにじゅうに、ろくさんじゅうはち、ろくしにじゅうし、……ろっくごじゅうし。

梨恵子先生：はい、よく覚えていますね。では今日は、この6の段の九九を使って解く問題を一緒に考えてみましょう。

梨恵子先生：これは何でしょう。（黒板にAのイラストを貼る。）

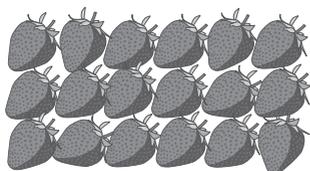
アキラ：いちご！

ユカ：いちご食べたい！（笑）

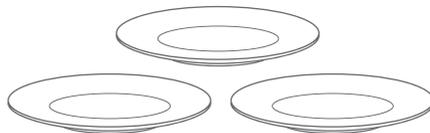
梨恵子先生：残念ながらこのいちごは食べられません。（笑）ではこれは何でしょう。（黒板にBのイラストを貼る。）

サキ：お皿？

A



B



梨恵子先生：そうですね。いちごとお皿です。それでは、この「いちご」と「さら」という言葉を使って、式が 6×3 になる問題を考えることにします。

梨恵子先生、板書する。「『いちご』と『さら』ということばをつかって、しきが 6×3 になるもんだいをつくろう。」子どもたち、ノートに写す。

小2国語「たとえをつかって文を書こう」

▶▶ 課題

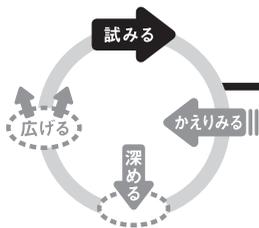
物語文教材「スイミー」（レオ・レオニ作、谷川俊太郎訳）の学習の発展として、「ような」「みたいな」などのたとえ（直喩）を使った表現を考えさせる授業を行いなさい。



【こくご 二上 たんぼぼ】光村図書、2015年

学習指導要領（2017年公示版）

※国語の「第1学年及び第2学年」の項目に直接的な該当箇所があるわけではありませんが、学習指導要領ではどのように目標と内容が記述されていてどう今回の課題に関連しそうか、目を通して考えてみましょう。



試みる



由香先生

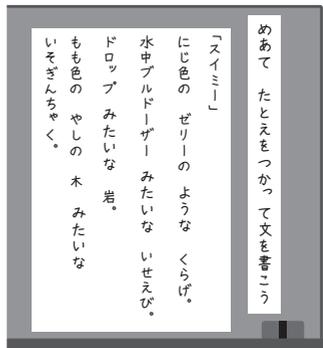
由香先生、黒板に「めあて たとえをつかって文を書こう」を貼る。

由香先生：今日のめあてはこれです。一緒に読みましょう。

子どもたち：たとえをつかって文を書こう。

由香先生：「たとえ」って何だろうと思う子がいると思うけど、「スイミー」のなかにいっぱいたとえが出てきました。

由香先生、黒板に本文の書き抜きの掲示を貼る。ワークシートを配る。



ワークシート

にじ色の……「スイミー」の引用文

たとえをつかった文を考えましょう。

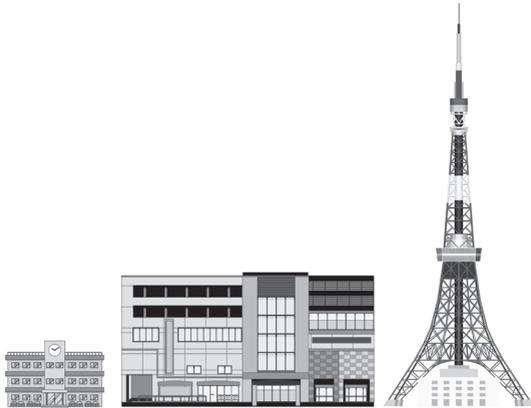
由香先生：（「スイミー」の書き抜きの掲示を指しながら）これを見て、似てるなあと思う部分がありますか？

小4算数 「何倍でしょう」

▶▶ 課題

以下の設問を使って授業を行いなさい。

テレビとうの高さは 90 m で、これは百貨店の高さの 3 倍です。百貨店の高さは、学校の高さの 2 倍です。学校の高さは何 m ですか。



『わくわく算数 4上』啓林館、2014年

学習指導要領（2017年公示版）

□算数 第4学年「内容」「A 数と計算」より

(3) 整数の除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。

(イ) 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。

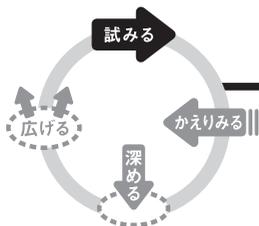
(ウ) 除法について、次の関係を理解すること。

$$(\text{被除数}) = (\text{除数}) \times (\text{商}) + (\text{余り})$$

(エ) 除法に関して成り立つ性質について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。



試みる



武史先生

黒板には問題文が書いてあり、拡大したイラストが貼ってある。

武史先生：今日はこの問題をします。最初にみんなで読んでみましょう。
子どもたち：テレビとうの高さは90 mで、これは百貨店の高さの3倍です。百貨店の高さは、学校の高さの2倍です。学校の高さは何 mですか。

武史先生：まず、この問題で分かっていることは何ですか。

アキラ：テレビ塔の高さは90 m。(武史先生、「分かっていること」「テレビとう 90 m」と板書。)

ユカ：テレビ塔の高さは百貨店の高さの3倍。(武史先生、「テレビとうの高さ 百貨店の3倍」と板書。)

サキ：百貨店の高さは学校の高さの2倍。(武史先生、「百貨店の高さ 学校の2倍」と板書。)

武史先生：求めたいことは何ですか。

リエコ：学校の高さ。(武史先生、「求めたいこと」「学校の高さ」と板書。)

何倍でしょう

テレビとうの高さは90 mで、これは百貨店の高さの3倍です。百貨店の高さは、学校の高さの2倍です。学校の高さは何 mですか。



分かっていること

テレビとう 90 m

テレビとうの高さ 百貨店の3倍

百貨店の高さ 学校の2倍

求めたいこと

学校の高さ

小5社会 「身のまわりの情報」

▶▶ 課題

情報産業や情報化した社会の様子について学ぶ単元の導入として、身のまわりの情報に目を向けさせる授業を行いなさい。



学習指導要領 (2017年公示版)

□社会 第5学年「内容」より

(4) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。

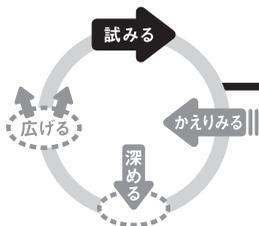
(イ) 大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解すること。

(ウ) 聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。



試みる



梨恵子先生

黒板に「身のまわりの情報について考えよう」と書いておく。

梨恵子先生：昨日の晩、テレビのニュースを見た人？（アキラとユカが挙手。）どんなニュースやった？

アキラ：アイドルグループのSKAPが解散。

ユカ：週末大雨になるって。

梨恵子先生：うんうん。アイドルグループの解散や週末の天気についてテレビのニュースを通して知ったんですね。

先生こんなの持ってきました。（ラーメン屋の半額セールチラシを取り出して見せる。）これを通してみんなは何を知ることができる？

タケシ：ラーメンが半額になる。

サキ：12月4日と5日にする。

ユカ：全部の店でやる。

梨恵子先生：そうそう、半額セールについて、チラシを通して知ったんですね。今出てきた例のように、物事について人に伝えられる知らせのことを、「情報」といいます。（「情報 物事について人に伝えられる知らせ」と板書。）テレビのニュースは、アイドルグループ解散の情報をみんなに伝えたし、このチラシは、ラーメン屋の半額セールの情報をみんなに伝えたんですね。こんなふうに、私たちの身のまわりにはたくさんの情報があって、いろいろな伝えられ方をしています。これからその勉強をしていきたいと思います。

まず、私たちの身のまわりにどんな情報があって、どんな伝えられ方をしているか、みんな

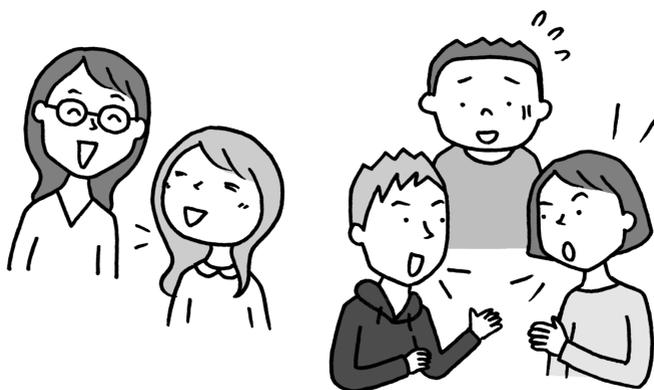


どんな情報	何を通して

小4国語「話し合い」

▶▶ 課題

話し合いのルールを意識してよりよい話し合いをすることについて学ぶ授業を行いなさい。



学習指導要領（2017年公示版）

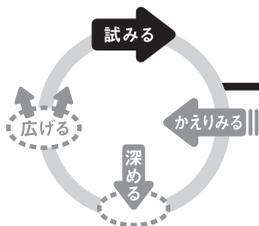
□国語 第3学年及び第4学年「内容」「A 話すこと・聞くこと」より

(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。
- イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。
- ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。
- エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。
- オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。
- イ 質問するなどして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。
- ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。



試みる



明先生

明先生：今日の授業では、みんなの頭をやわらかくして考えてもらいたいと思います。今日のめあてはこれです。

黒板に短冊を貼る (A)。グレーの四角の部分は紙を貼って隠してある。

明先生：「話し合いのルールに注意しながら、○○を考えよう」。で、この隠してある部分に何が入るかっていうと…。まずこれを見てください。

折りたたんだ紙を黒板に貼り、一行ずつ開いて見せながら読んでいく (B)。

明先生：すきじゃないわ／きらいよ／でーとなんて／するもんですか。

何か気づいたことはありますか？

ユカ：「でーと」がひらがなで書いてある？

サキ：あ、「すきです」！

タケシ：えっ？

リエコ：最初の文字を横に読んだら「すきです」になっている。

タケシ：ほんとだ。

明先生：よく見破りました！（各行最初の「す」「き」「で」「す」を○で囲む。）

こんなふうには、行の最初の文字をつなげて読むと何か言葉が浮かびあがってくるものを、「あいうえお作文」とか「アクロスティック」とか言ったりします。

で、今のは詩人の谷川俊太郎さんがつくったものだったんですが、先生も、「あいうえお」になるようにつくってみました。

紙に書いたものを一行ずつめくりながら読む

A
めあて
話し合いのルールに注意しながら考えよう。

B
すきじゃないわ
きらいよ
でーとなんて
するもんですか

C
あしをすべらせて
いちばん
うえの
えだから
おっこちました

小4音楽「とんび」

▶▶ 課題

歌唱教材「とんび」を用いて、強弱を工夫しながら歌えるようになるというねらいの授業を行いなさい。曲は前時までで一通り歌えるようになっていくものとする。



1 とべとべとーんび そらたーかーく
2 とぶとぶとーんび そらたーかーく



なけなけとーんび あおぞらーに
なくなけとーんび あおぞらーに



ピンヨロー ピンヨロー ピンヨロー ピンヨロー
ピンヨロー ピンヨロー ピンヨロー ピンヨロー

「とんび」

作詞：葛原しげる

作曲：梁田貞



たのしーげーに わをかーいーて
たのしーげーに わをかーいーて

学習指導要領（2017年公示版）

□音楽 第3学年及び第4学年「内容」〔A 表現〕より

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。

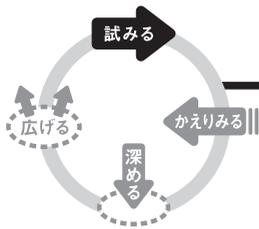
イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。

ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の（ア）から（ウ）までの技能を身に付けること。

(ア) 範唱を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして歌う技能

(イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能

(ウ) 互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能



試みる



咲希先生

黒板に教科書のページ（「とんび」の歌詞と楽譜が掲載されている）を模造紙大に拡大したものが貼ってある。

咲希先生：前の時間までに、「とんび」の学習をしてきましたね。ではまず一緒に一番だけ歌ってみましょう。

咲希先生のピアノ伴奏に合わせて、子どもたち、一番を歌う。

咲希先生：曲のなかで繰り返し出てきている言葉がありましたね。何でしょう？

アキラ：「ピンヨロー」？

咲希先生：そうそう。確認ですが、「ピンヨロー」っていうのは、とんびの…？

タケシ：鳴き声？

咲希先生：はい、そうですね。とんびの鳴き声でした。これが何回出てきますか？

ユカ：4回。

咲希先生：これ、楽譜を見てもらったらよく分かりますが、（黒板に貼った拡大コピーを指しながら）4回繰り返す「ピンヨロー」は、メロディーもどれも似たような形ですね。これを全部同じように歌うと、退屈な感じになってしまいそうです。

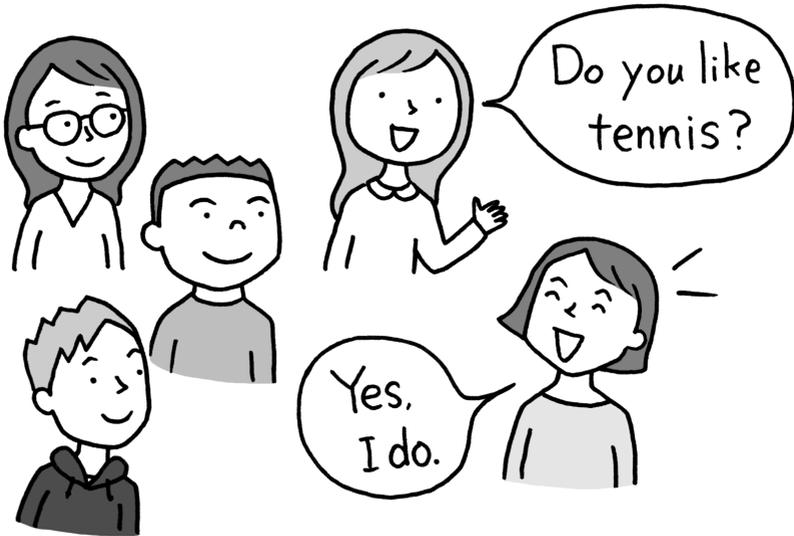
そこで、今日のめあてはこれです。（黒板に短冊を貼る。）「めあて 強弱を考えて3だんめの歌い方を工夫しよう」。

ワークシートを配る。

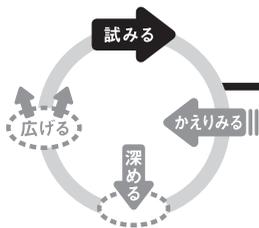
小5外国語「What sport do you like?」

▶▶ 課題

Do you like...? のフレーズを使って相手の好きなものを尋ねたり、それに答えたりできるようになるための授業を行いなさい。



※自分で学習指導要領の「外国語」の項目を見て確認してみよう。



試みる



武史先生

武史先生：Let's start English class! OK?

子どもたち：OK!

武史先生：Good morning, everyone. How are you today?

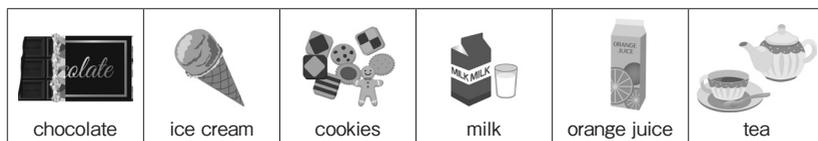
アキラ、ユカ、リエコ：I'm fine, thank you. / サキ：Not bad.

子どもたち：(武史先生の手招きに合わせて) And you?

武史先生：I'm great! Thank you.

武史先生：はい、前回の授業で、好きなものを言う言い方を勉強しました。覚えていますか？

武史先生、絵カード6枚を黒板に貼る。



武史先生：まず単語の発音をしてみましょう。Repeat after me. Chocolate.

(全員「Chocolate」) Ice cream. (全員「Ice cream」) Cookies. (全員

「Cookies」) Milk. (全員「Milk」) Orange juice. (全員「Orange juice」)

Tea. (全員「Tea」)

武史先生：先生はアイスクリームが好きなので…。I like ice cream.

Repeat after me. I like ice cream.

子どもたち：I like ice cream.

武史先生：I like ice cream.

子どもたち：I like ice cream.

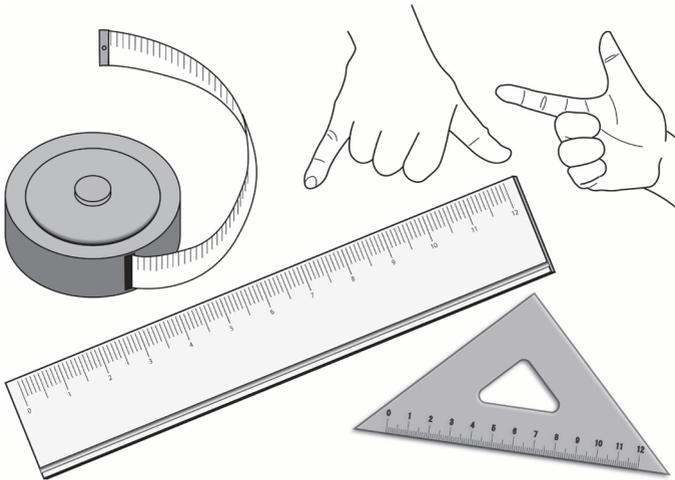
武史先生：ではみなさんも、どれか1つ選んで、I like... の形で言ってください。ユカさんから。

ユカ：えーっと、I like chocolate.

小2算数 「長さをはかろう」

▶▶ 課題

ミリメートル (mm)、センチメートル (cm)、メートル (m) といった長さの単位について教えていく前段階として、普遍単位（世界で共通に使われる単位）の必要性に気づかせる授業を行いなさい。



学習指導要領（2017年公示版）

□算数 第2学年「内容」「C 測定」より

(1) 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

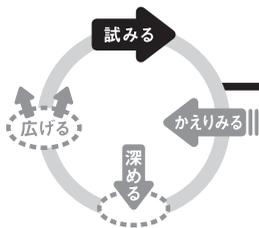
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 長さの単位（ミリメートル (mm)、センチメートル (cm)、メートル (m)）及びかさの単位（ミリリットル (mL)、デシリットル (dL)、リットル (L)）について知り、測定の意味を理解すること。

(イ) 長さ及びかさについて、およその見当を付け、単位を適切に選択して測定すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 身の回りのものの特徴に着目し、目的に応じた単位で量の大きさを的確に表現したり、比べたりすること。



試みる



由香先生

由香先生：今日は、みんなが大事に育てているトマトの葉っぱの絵を描いてきました。（葉っぱの絵を3点取り出して見せる。）



サキはっぱ



リエコはっぱ



タケシはっぱ

アキラ：（葉っぱの絵を見て）赤い線（※上のイラストでは黒の太線）が引いてある。

由香先生：はい。今日はこれを使って長さの勉強をします。（黒板に貼りながら）これはサキさんの葉っぱ、これはリエコさんの葉っぱ、これはタケシさんの葉っぱです。（黒板に「サキはっぱ」「リエコはっぱ」「タケシはっぱ」と書く。）この3つの葉っぱのなかで一番長いのは誰の葉っぱでしょう。予想でいいですよ。

タケシ：タケシ葉っぱ？

リエコ：私もタケシ葉っぱ。

アキラ：リエコ葉っぱももしかしたら同じくらいかも。

由香先生：そう、分かりにくいですね。そこで、今日のめあてはこれです。

由香先生、黒板に書く。「めあて 線の長さをわかりやすくあらわすにはどうしたらよいか考えよう。」

由香先生：一緒に読みましょう。せーの。

子どもたち：線の長さをわかりやすくあらわすにはどうしたらよいか考えよう。